

チームの創造性を高めるための 「青春ノスタルジア効果」の活用に関する研究

～「青春エピソードトークを誘発しやすくするツール」の使用体験設計～

早川ゼミ研究員

小野（杉田）・田浦（柴田）・塩田（清水）

研究背景・目的

修士研究では、青春をトリガーとするノスタルジアがチームの創造性にもたらす効果について研究、"青春ノスタルジア効果"を活用したチームの創造性を高めるキックオフツール「青春デリバリーボックス」の開発に取り組んだ。その研究を踏まえ、今年度は、「青春デリバリーボックス」の使用体験設計をさらに精緻化、ブラッシュアップし、社会実装に向けて取り組む。

研究方法

次の2点を並行して検証していく。

- 1.社会実装する上での必要性とその実装形態の検討
 - 1-1.ユーザー像を特定し、その必要性を検証する。
 - 1-2実装する際の実装形態・販路の検討、交渉
- 2.キックオフツールの改訂
 - 2-1.キックオフツールに入れ込むべき要素の再点検
ノスタルジアを喚起する青春要素のうち、どの要素がチームの創造性を高める効果があるのか、その影響の優先度を特定する。
 - 2-2.キックオフツールの要件定義
1を踏まえ、どのようなツールが最適であるか、再検討する。
その際、ユーザーペルソナと照らし合わせながら、最適な要件を整理する。
 - 2-3.キックオフツールのデザイン改訂
1.2を踏まえ、ツールの内容構成、意匠デザインを再検討し、プロトタイプの改良を行う。
 - 2-4.プロトタイプの試用テスト・更なる改良
改良したプロトタイプの試用テストと更なる改良を行う

期待する研究成果

社会実装にあたり、市場性を検証し、その市場性に合わせた設計を行うとともに、効果をより享受しやすい仕様の検討を行い、より価値の高いツールの完成を目指す。

プロトタイプのブラッシュアップ



-Research Question-

「集団創造性（流暢性・柔軟性・独自性）」向上を目的とした際、
ユーザーにとって「**シンプルに使いやすい・使いたくなるもの**」
とはどんなものか？

STEP①：使いやすい仕様（要素の削ぎ落とし。本当に必要な要素の見極め）

STEP②：魅力的な意匠デザイン性

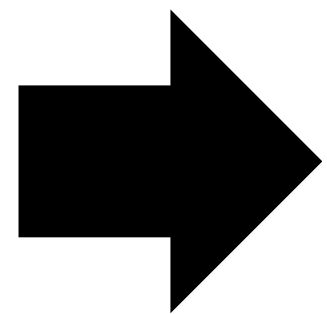
仮説とその検証整理

- チームでのアイデア出しにはメンバー同士の「自己開示」が重要（先行論文より実証済み）
 - デリバリーボックスの中でも「エピソードトーク」共有ツールが最重要（実験で実証済み）
 - 「自己開示」に効くのはエピソードトーク共有ツールの5大感情のうち、
「甘酸っぱい系」の話が最も高い（ここは実験での質的な感触）
*絶妙な深度（表層的すぎず、深すぎず）の自己開示
- 話す側にとって、話すハードルが低い（誰もが若く未熟な時代の話だから。クスッと笑える可愛げがある）
- 聴く側も、話者が自己開示してくれたと思える
（みんなにも思い当たる節がある話で、普段は開示しない話であるため、それを聞くと開示してくれたなと思える）

取り組むべき課題

青春時代の甘酸っぱい系の話をトークしあうことで自己開示しあえ、
チームの創造性を発揮しやすくするツールの開発

青春トークルーレット



- ①：使いやすい仕様
 - ②：魅力的な意匠デザイン性
- を備えた形で再デザイン

課題設定

取り組むべき課題

青春時代の甘酸っぱい系の話をトークしあうことで自己開示しあえ、
チームの創造性を発揮しやすくするツールの開発

①：使いやすい仕様 ②：魅力的な意匠デザイン性

を備えた形で再デザイン



アイデアの着眼点

青リンゴ



参考

青リンゴ="クリエイティビティ"と"青春"（未熟だけど希望に溢れてる・甘酸っぱい）をイメージさせるモチーフ

朝日新聞デジタル > 記事

医療サイト 朝日新聞アピタル

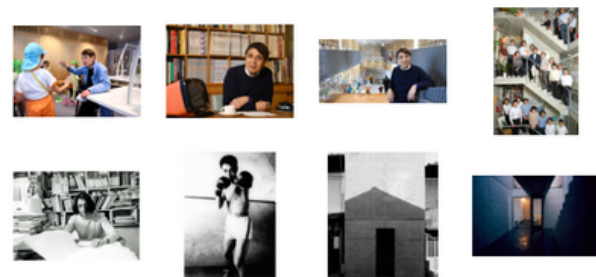
「青リンゴのまま走れ」 安藤忠雄さんが語る青春と人生 100年

有料記事

聞き手・山内深紗子 2022年12月24日 11時00分



「10代、20代でこのリンゴを触った若者が、中高年でまた触って、『青いまま走っているか』を確認してもらおう。そうなるといいですね」と話す安藤忠雄さん=大阪市北区、相場郁朗撮影



「青いリンゴのまま走れ」――。建築家の安藤忠雄さん（81）の信念のひとつです。60代と70代で2度がんを患い、膵臓（すいぞう）などの「五臓」がありません。大病後に手がけたのが、子どものための図書館づくり。私費を投じ、自治体に寄付し、バングラデシュでも建設を進めています。

――大阪の子ども図書館には、2メートル超の青リンゴのオブジェがあります。なぜこれを作ったのですか？

これは「永遠の青春」と名付けました。

米国の詩人サミュエル・ウルマン（1840～1924）の「青春」という詩を大切にしていま



1968年4月、ビートルズ&カンパニーの組織を発展させる形でアップル・コープスが設立された。ポール・マッカートニーをはじめとするビートルズはキャピトルレコードに対しても、すべてのビートルズ関連のレコードをアップル・レーベルでリリースすることを約束させ、以降ビートルズの作品のほか、アップルが独自に発掘したアーティストたちの作品がこのリンゴのマークのレーベルで世に出ることとなった。

「青春青リンゴ」

素材・構造の検討

発砲スチロール製



- ・見た目も触感も「青りんご」に近い
- ・発砲スチロールの断面は難しいかも

木製



- ・木のもつ手触り感や重量感はよいが「青りんご」ではない
- ・塗装すると木製の良さは半減するかも

製（付箋タイプ）



付箋型の「青春青リンゴ」のプロトタイプ試用テスト



甘く実った赤リンゴではなく、
未熟で酸っぱくとも 希望に溢れた青りんごのような
青春時代を容易に連想できる仕掛け

青春時代の・・・

- ・キュンとする
- ・甘酸っぱい
- ・切ない
- ・ほろ苦い
- ・ワクワク
- ・ドキドキ

する思い出



青りんご型の付箋メモを切り取り、メモに書かれている
テーマにあったエピソードを語り合う仕様でトライアル!

- ◎ 年齢や性別を問わず、誰にとっても「青りんご」＝「甘酸っぱい」「青春」のイメージはつきやすい
 - ◎ コンパクトで扱いやすいため、勝手に参加者同士がパスし合い対話を展開できる
 - ◎ 自動的に参加者全員がエピソードを語り回す流れがつくられ、勝手に盛り上がる
 - △ メモ帳仕様のため、書かれているテーマが見えてしまい、ランダムで決まるドキドキ感は少ない
- ➔ 持ち運びできる大きさで中身（書かれているテーマ）がわからず、使いつづけられる形状を検討

今後の検討

①プロトタイプ

ツールの素材や構造の検討を重ね、プロトタイプの試用テスト、更なる改良を進める。

②社会実装のためのルートの検討